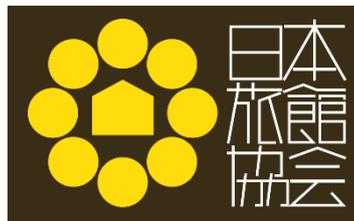


営業状況等統計調査

(令和4年度財務諸表等より)

— 令和5年度 —

<解説編>



一般社団法人 日本旅館協会

JAPAN RYOKAN & HOTEL ASSOCIATION

令和5年度 営業状況等統計調査

目 次

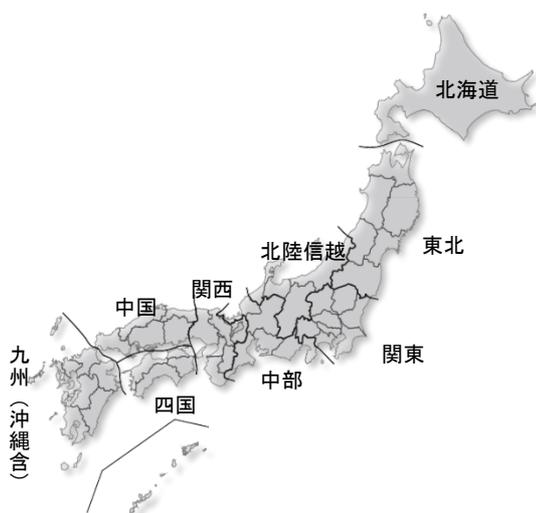
<解説編>

会員数と回答旅館ホテルの内訳.....	2
はじめに.....	3
報告書の読み方.....	5
I. 基本調査.....	7
1. 回答旅館ホテルの規模.....	7
2. 貸借対照表.....	9
3. 資本効率・借入金償還年数.....	11
4. 売上構成比.....	13
5. 原価率.....	16
6. 経費率.....	18
7. 利益率.....	21
8. GOP率.....	24
9. 定員稼働率・客室稼働率.....	26
10. 宿泊客1人当たり総売上高.....	28
11. 売上効率.....	31
12. 就業者・就業者効率.....	33
13. 延床面積効率.....	37
II. 全件調査.....	39
1. 集客方法.....	39
2. ホームページ.....	41
3. インターネット対応.....	42
4. 外国人宿泊客.....	43
5. クレジットカード&電子決済.....	45
むすび.....	46

会員数と回答旅館ホテルの内訳

会員数（令和5年9月19日現在）

地域（支部連合会）	会員数	区 分
北海道	168	北海道
東北	227	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
関東	375	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県
北陸信越	394	新潟県、富山県、石川県、長野県
中部	267	福井県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
関西	316	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中国	132	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
四国	116	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州	216	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
合計	2,211	



- 大規模・・・客室数100室以上
- 中規模・・・客室数31室以上99室以下
- 小規模・・・客室数30室以下

<回答旅館ホテルの内訳>

	有効回答数（棟）			黒字 施設数 （棟）	黒字比率 （%）	総回答数 （棟）	
	大規模	中規模	小規模				
全 体	153	28	68	57	106	69.3	174
大規模	28	28	—	—	14	50.0	32
中規模	68	—	68	—	50	73.5	76
小規模	57	—	—	57	42	73.7	66
北海道	20	9	7	4	12	60.0	23
東北	8	5	1	2	3	37.5	10
関東	21	2	12	7	15	71.4	34
北陸信越	22	1	12	9	18	81.8	23
中部	12	1	7	4	8	66.7	12
関西	30	3	11	16	22	73.3	18
中国	14	3	7	4	7	50.0	14
四国	15	3	6	6	12	80.0	16
九州	11	1	5	5	9	81.8	23
黒字	106	14	50	42	106	100.0	110
赤字	47	14	18	15	—	0.0	47

（注）損益計算が十分な回答を有効とした。全件調査は有効回答に加え損益計算が不十分な回答も対象としている。

<はじめに>

この調査は全ての協会員に対し、メール(一部 FAX 等)で周知して実施しています。今回は 174 軒の会員旅館から回答が寄せられました。ご協力いただいた会員各位にはこの誌面をお借りして御礼申し上げます。

この調査は令和 5 年 9 月に開始しており、概ね令和 5 年 8 月以前の決算書を基に作成されたものです。従いまして期首が令和 3 年 9 月～4 年 8 月、期末が令和 4 年 8 月～5 年 7 月の決算が反映されています。

令和 4 年夏頃から徐々にコロナ収束による需要の回復がみられましたが、インバウンドが顕著に増加したのは令和 5 年になってからであり、さらに本格的な回復は感染症法の 5 類に移行した令和 5 年 5 月です。よって前回の調査よりは回復しているものの約半数が回復していない時期の決算書に基づく結果となっています。

(1)対象年度の振り返り

ア) 訪日外国人数：令和 4 年（2022 年）の訪日外国人数は 383 万人となりました。前年度の令和 3 年（2021 年・24 万人）比+1,458.6%、コロナ前の令和元年度（2019 年・3,188 万人）比▲88.0%となっています。

出典：日本政府観光局（JNTO）「訪日外客統計」より

イ) 訪日外国人の国内旅行消費額：令和 4 年（2022 年）の訪日外国人の日本国内での旅行消費額は、8,987 億円となりました。前年度の令和 3 年（2021 年・1,208 億円）比 +644%、コロナ前の令和元年度（2019 年・4 兆 8,135 億円）比▲81.3%となっています。

出典：観光庁「訪日外国人消費動向調査」より

ウ) 日本人の国内旅行消費額：令和 4 年（2022 年）の日本人の国内旅行消費額は、17 兆 1,929 億円でした。前年度の令和 3 年（2021 年・9 兆 1,835 億円）比+87.2%、コロナ前の令和元年度（2019 年・21 兆 9,312 億円）比▲21.6%となっています。

出典：観光庁「旅行・観光消費動向調査」より

(2)今年度調査の回答数、回答率<表 1>

今年度の調査票送信数は 1,958 軒、回答数は 174 軒でした。全体の有効回答数は 153 軒で、送信軒数に占める有効回答率は 7.8%でした。規模別にみる有効回答数の前年度比・令和元年度比は以下の通りです。

- ・大規模 28 軒（前年度比 ▲1 軒 ▲3.4% / 令和元年度比 ▲11 軒 ▲28.2%）
- ・中規模 68 軒（前年度比 ▲8 軒 ▲10.5% / 令和元年度比 ▲29 軒 ▲29.9%）
- ・小規模 57 軒（前年度比 ▲17 軒 ▲23.0% / 令和元年度比 ▲1 軒 ▲1.7%）

表1 有効回答全体の推移

(単位:軒)

年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
29 年	198	41	97	60
30 年	162	36	76	50
令和元年	194	39	97	58
2 年	153	32	70	51
3 年	179	29	76	74
4 年	153	28	68	57

(3)黒字・赤字の割合 <図 1、表 2>

経常利益で黒字・赤字を区分しています。全体では 69.3%となり、前年度から 26.3 ポイント増加しました。令和元年度からは 17.8 ポイント増加しています。コロナが一部期間で収束し回復しています。団体の回復が遅れ、大規模旅館の回復が遅れています。

- ・大規模 50.0% (前年度比 +22.4P / 令和元年度比 ▲3.8P)
- ・中規模 73.5% (前年度比 +32.7P / 令和元年度比 +22.0P)
- ・小規模 73.7% (前年度比 +22.3P / 令和元年度比 +23.7P)

図1 黒字の割合 (単位：%)

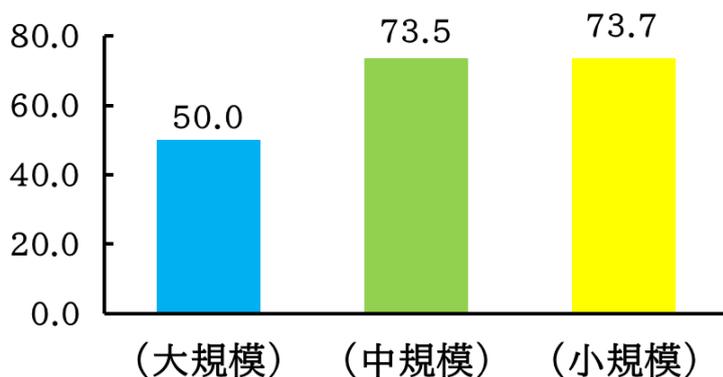


表2 黒字全体の推移

(単位：%)

年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
29年	63.6	73.2	68.0	50.0
30年	64.8	69.4	63.2	64.0
令和元年	51.5	53.8	51.5	50.0
2年	32.0	12.5	25.7	52.9
3年	43.0	27.6	40.8	51.4
4年	69.3	50.0	73.5	73.7

報告書の読み方

(1)調査の概要

この調査は「Ⅰ.基本調査」と「Ⅱ.全件調査」の2部構成となっています。基本調査は損益計算や客室数、利用人員等の記述が十分な回答（有効回答）に絞って集計しています。一方、全件調査はすべての回答を対象として集計しています。

また規模別集計は客室数を基準としています。

- ・大規模 : 100室以上
- ・中規模 : 31室以上99室以下
- ・小規模 : 30室以下

さらに、経常利益を基準に「黒字」「赤字」としています。

(2)今回の主な変更点

- ・図3~8のグラフ横軸に令和元年を追加しました。
- ・P7 回答旅館ホテルの規模 (3)総売上高の黒字・赤字比を追加しました。

(3)解説編の表記方法 <表3>

- ・この調査は調査開始時点での直近の決算書を対象に実施しています。各表の新年度は「令和4年」と表記しています。
- ・前年度との比較：例えば「大規模 20,000円 (▲500円、▲2.4%)」と表記した場合、20,000円は今年度の集計結果であり、()内は前年度等との比較を示します。
- ・数値が前年度を上回るときは「+」、下回るときは「▲」を付します。
- ・%同士の引き算（例えば14.4%－14.7%）の結果を%で表記すると100分率との混同がありますので、単位をポイントとし「P」と表記します。
- ・本文中の数値は四捨五入のうえ表記します。
- ・多くの決算書で「経費」や「販売管理費及び一般管理費」等と記される科目は表3の通り当協会の「統一会計基準」による区分としました。

(4)資料編について

資料編は集計結果のみを掲載しています。留意点は次のとおりです。

- ・調査は任意回答であるために一部に無回答があります。そこで項目ごとに集計対象を見直しています。
- ・全体平均、規模別、地域別、黒字・赤字別に集計していますが、その場合も以下のようにその都度計算する対象を見直しています。

原価率＝原価額÷売上額

黒字の原価率＝黒字施設全体の原価÷黒字施設全体の売上

赤字の原価率＝赤字施設全体の原価÷赤字施設全体の売上

- ・回答された調査票のうち売上等内訳を記載しないまとめ書きについては按分しています。
- ・さらに、異常値といえる過大あるいは過少の数値については、その項目を不明としています。

表3 経費区分

人件費	役員報酬、給料、退職金、法定福利費、厚生費、 外注・委託費、求人費、教育研修費、賞与
営業費	販売促進費、営業所費、営業交通費、接待交際費、 広告宣伝費、販売手数料
業務費	サービス費(リネン、客室消耗品費、アメニティ)、 備品消耗品費(食器、厨房用品、装飾費)、修繕費、 保守修繕費、衛生費、車両費、水道光熱費、通信運搬費
管理費	リース料、会費・組合費、地代・家賃、顧問料・調査費、 保険料、租税公課、事務用消耗品費、雑費
減価償却費	建物、構築物、機械等の減価償却費

I.基本調査

基本調査は全体の経営状況を分析します。

1.回答旅館ホテルの規模 <表4、表5>

(1)総客室数・収容定員

全体で1軒当たり客室数は64室、収容定員245名となっています。規模別では、

・大規模	172室	(前年度比 ▲9室 ▲5.0%	/ 令和元年度比 ▲1室 ▲0.6%)
・中規模	58室	(前年度比 ±0室 ±0.0%	/ 令和元年度比 ▲3室 ▲4.9%)
・小規模	19室	(前年度比 ±0室 ±0.0%	/ 令和元年度比 +1室 +5.6%)

収容定員は、

・大規模	659人	(前年度比 0人 0.0%	/ 令和元年度比 ▲1人 ▲0.2%)
・中規模	215人	(前年度比 ▲24人 ▲10.0%	/ 令和元年度比 ▲42人 ▲16.3%)
・小規模	78人	(前年度比 +7人 +9.9%	/ 令和元年度比 ▲2人 ▲2.5%)

(2)1室当り収容定員

1室当り収容定員=収容定員÷総客室数

全体で1室当り定員は3.8人と前年度と同じでしたが、減少傾向です。

(3)総売上高

全体で1軒当りの総売上高は、636,817千円で前年度比68.6%増加、令和元年度比6.7%減少しました。

・大規模	1,558,751千円	(前年度比 +678,509千円 +77.1%	/ 令和元年度比 ▲147,719千円 ▲8.7%)
・中規模	598,942千円	(前年度比 +180,104千円 +43.0%	/ 令和元年度比 ▲4,128千円 ▲0.7%)
・小規模	229,122千円	(前年度比 90,688千円 +65.5%	/ 令和元年度比 +46,802千円 +25.7%)

全ての規模においてコロナ禍の一部収束により大きく増加していますが、規模が大きくなるほどコロナ以前と比較すると回復途上です。

・大規模	黒字：1,847,170千円	赤字：1,225,960千円	黒字が赤字に比べ50.7%多い
・中規模	黒字：625,327千円	赤字：525,651千円	黒字が赤字に比べ19.0%多い
・小規模	黒字：264,816千円	赤字：129,179千円	黒字が赤字に比べ117.6%多い

黒字・赤字別では、売上高に顕著な差があります。

(4)年間宿泊人員

1軒あたり年間宿泊人員は全体で28,491人となり、前年度比50.6%増加、令和元年度比21.2%減少し

ました。

- ・大規模 72,632人（前年度比 +21,826人 +43.0% / 令和元年度比 ▲14,705人 ▲16.8%）
- ・中規模 26,736人（前年度比 +7,096人 +36.1% / 令和元年度比 ▲5,946人 ▲18.2%）
- ・小規模 8,901人（前年度比 +3,140人 +54.5% / 令和元年度比 +1,482人 +20.0%）

表4 1棟あたりの総客室数・収容定員・1室当り定員

	年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
総客室数 (室)	29年	67	166	56	19
	30年	70	168	57	19
	令和元年	70	173	61	18
	2年	65	161	56	19
	3年	63	181	58	19
	4年	64	172	58	19
収容定員 (人)	29年	298	716	255	81
	30年	299	679	264	78
	令和元年	373	659	257	80
	2年	261	623	232	68
	3年	240	659	239	71
	4年	245	659	215	78
1室当り定員 (人)	29年	4.4	4.3	4.6	4.2
	30年	4.3	4.0	4.7	4.1
	令和元年	4.0	3.8	4.3	4.4
	2年	4.0	3.9	4.1	3.6
	3年	3.8	3.6	4.1	3.7
	4年	3.8	3.8	3.7	4.2

表5 総売上高、年間宿泊人員

	年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
総売上高 (千円)	29年	832,180	2,253,030	627,890	191,540
	30年	824,120	1,917,550	706,000	216,380
	令和元年	682,520	1,706,470	603,070	182,320
	2年	445,128	1,124,806	362,041	164,853
	3年	377,669	880,242	418,838	138,434
	4年	636,817	1,558,751	598,942	229,122
年間宿泊人員 (人)	29年	42,483	111,841	33,646	9,375
	30年	40,028	94,301	34,095	9,970
	令和元年	36,170	87,337	32,682	7,419
	2年	20,958	48,278	18,080	5,642
	3年	18,915	50,806	19,640	5,761
	4年	28,491	72,632	26,736	8,901

2.貸借対照表 <表6、表7、表8、表9>

(1)資産の状況

1軒当りの総資産額は、全体で1,254,379千円となり、前年度から14.0%増加、令和元年度から0.6%減少しています。

- ・大規模 3,221,104千円（前年度比 +429,449千円 +15.4%
/ 令和元年度比 ▲112,436千円 ▲3.4%）
- ・中規模 1,177,648千円（前年度比 +29,686千円 +2.6%
/ 令和元年度比 +170,928千円 +17.0%）
- ・小規模 392,694千円（前年度比 +48,426千円 +14.1%
/ 令和元年度比 +92,004千円 +30.6%）

表6 1軒当り資産 (単位:千円)

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
総資産額	29年	1,412,100	4,193,530	861,470	271,870
	30年	1,453,900	3,370,340	1,178,020	284,190
	令和元年	1,261,460	3,333,540	1,006,720	300,690
	2年	1,388,164	3,876,485	1,092,891	372,655
	3年	1,100,433	2,791,655	1,147,962	344,268
	4年	1,254,379	3,221,104	1,177,648	392,694
長短借入金合計	29年	921,200	2,644,380	617,730	158,300
	30年	973,170	2,086,990	885,710	168,400
	令和元年	995,680	2,654,060	788,580	230,030
	2年	976,754	2,582,449	837,919	255,274
	3年	897,302	2,260,902	978,269	241,421
	4年	997,359	2,614,050	976,491	242,138

① 流動資産

流動資産は現預金や売掛金など流動性の高い資産です。総資産に占める割合は28.9%と前年度から5.8ポイント増加しました。令和元年度からは8.6ポイント増加しています。

② 固定資産

固定資産は総資産の70.7%（前年度より5.6ポイント減少、令和元年度より8.8ポイント減少）を占め、前回調査より大幅に減少しました。コロナ禍で設備投資が減少し償却が増加したと推測されます。

(2)負債・資本の状況

① 流動負債

流動負債は、1年以内に返済や支払が予定される短期借入金や買掛金、未払金等です。今回の調査で総資本に占める割合は22.3%（前年度より7.7ポイント増加、令和元年度より5.6ポイント増加）でした。規模別では、大規模が24.6%、中規模が18.4%、小規模が25.9%でした。

資金繰り上、流動負債を流動資産が上回ることが健全です。

② 長短借入金

長期借入金と短期借入金の合計が総資本に占める割合は79.5%となり、前年度より2.0ポイント減少、令和元年度より0.6ポイント増加しました。所謂ゼロゼロ融資による借入金の返済があまり進んでいないものと思われます。

③ 自己資本（純資産）比率

企業の安全度・健全度を示す最も重要な指標です。基本的には過去の利益の積み重ねですので、金融機関が重視する指標です。マイナスは帳簿上債務超過を表します。

全体で6.7%と、前年度より0.3ポイント増加、令和元年度より10.9ポイント減少しました。規模別では、大規模 5.5%、中規模 6.1%、小規模 13.2%でした。黒字全体が14.5%、赤字全体は-17.2%でした。地域別で大きな違いがあります。インバウンドが回復している関東や関西が高いように思われます。

表7 貸借対照表

(単位:%)

	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
流動資産	28.9	29.1	30.0	24.6
固定資産	70.7	70.5	70.0	73.6
繰延資産	0.4	0.4	0.1	1.8
資産の部合計	100.0	100.0	100.0	100.0
流動負債	22.3	24.6	18.4	25.9
(うち短期借入金)	12.1	16.0	9.1	7.2
固定負債	71.1	69.9	75.5	61.0
(うち長期借入金)	67.4	65.2	73.9	54.5
(長短借入金合計)	79.5	81.2	82.9	61.7
純資産	6.7	5.5	6.1	13.2
負債・資本の合計	100.0	100.0	100.0	100.0

表8 資産と借入金

(単位:%)

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
流動資産	29年	23.0	24.9	19.0	21.0
	30年	19.3	19.2	19.0	23.2
	令和元年	20.3	21.2	19.2	19.7
	2年	23.1	22.0	23.8	26.8
	3年	23.1	24.5	20.6	27.3
	4年	28.9	29.1	30.0	24.6
固定資産	29年	77.0	75.1	80.9	78.7
	30年	80.5	80.8	80.7	76.6
	令和元年	79.5	78.8	80.4	79.9
	2年	76.7	78.0	75.7	72.6
	3年	76.3	75.1	78.8	71.4
	4年	70.7	70.5	70.0	73.6
長短借入金合計	29年	65.2	63.1	71.7	58.2
	30年	66.9	61.9	75.2	59.3
	令和元年	78.9	79.6	78.3	76.5
	2年	70.4	66.6	76.7	68.5
	3年	81.5	81.0	85.2	70.1
	4年	79.5	81.2	82.9	61.7

表9 地域別自己資本比率 (単位:%)

	地域別自己資本比率
全体	6.7
大規模	5.5
中規模	6.1
小規模	13.2
北海道	7.7
東北	▲7.9
関東	22.9
北陸信越	5.2
中部	9.6
関西	11.2
中国	▲2.1
四国	2.3
九州	▲3.1
黒字	14.5
赤字	▲17.2

3.資本効率・借入金償還年数<表 10>

(1)総資本利益率

$$\text{総資本利益率} = \text{経常利益} \div \text{総資本} \times 100$$

総資本利益率は総資本に対する経常利益の割合を示します。全体平均は 2.13% でした。前年度より 4.80 ポイント改善、令和元年度より 1.10 ポイント改善しました。全ての規模において回復しましたが、規模が小さいほど高くなっています。

- ・大規模 0.00% (前年度比 +5.90P / 令和元年度比 ▲0.20P)
- ・中規模 3.15% (前年度比 +1.25P / 令和元年度比 +1.95P)
- ・小規模 6.98% (前年度比 +6.90P / 令和元年度比 +1.70P)

黒字・赤字別では、

- ・黒字：6.08% 赤字：▲9.17%

(2)総資本回転率

$$\text{総資本回転率} = \text{総売上高} \div \text{総資本} \times 100$$

総資本回転率は総資本に対する売上高です。この数値が高いほど資本効率が良いと言えます。全体平均は 0.51 回転であり前年度から 0.17 回増加しましたが、依然低水準です。

- ・大規模 0.48 回 (前年度比 +0.16 回 +50.0% / 令和元年度比 ▲0.07 回 ▲12.7%)
- ・中規模 0.51 回 (前年度比 +0.15 回 +41.7% / 令和元年度比 ▲0.20 回 ▲28.2%)
- ・小規模 0.58 回 (前年度比 +0.18 回 +45.0% / 令和元年度比 ▲0.06 回 ▲9.4%)

規模が大きくなるほど低くなっています。

黒字・赤字別では、

- ・黒字：0.49 回 赤字：0.55 回

(3)借入金償還年数

$$\text{借入金償還年数} = (\text{長期借入金} + \text{短期借入金}) \div (\text{減価償却費} + \text{経常利益})$$

借入金償還年数は借入金を理論上何年で償還出来るかを見る指標です。よって年数が少ないほど良くなります。本調査では便宜上、減価償却費と経常利益を借入金返済の原資と計算しました。

装置産業である宿泊業にとって借入金が多額になることはある意味やむを得ませんが、安定的な利益を確保し、10 年以内で償還出来るようにしたいものです。

全体平均は 14.0 年であり前年度より大幅に改善しました。

- ・大規模 25.4 年 (前年度 償還不能 / 令和元年度比 1.8 年改善)
- ・中規模 12.0 年 (前年度比 3.6 年悪化 / 令和元年度比 6.1 年悪化)
- ・小規模 5.5 年 (前年度比 12.8 年悪化 / 令和元年度比 3.3 年悪化)

黒字・赤字別では、

- ・黒字：7.7 年 赤字：▲19.4 年＝償還不能

地域別では北海道だけ償還不能です。

表10 資本効率・資金回収年数

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
総資本利益率 (%)	29年	1.8	2.0	1.2	1.5
	30年	1.3	1.3	1.2	2.5
	令和元年	1.0	0.2	1.2	5.3
	2年	▲ 5.1	▲ 6.2	▲ 4.4	▲ 1.4
	3年	▲ 2.7	▲ 5.9	1.9	0.1
	4年	2.1	0.0	3.1	7.0
総資本回転率 (回)	29年	0.61	0.54	0.74	0.70
	30年	0.60	0.57	0.60	0.80
	令和元年	0.62	0.55	0.71	0.64
	2年	0.32	0.29	0.35	0.44
	3年	0.34	0.32	0.36	0.40
	4年	0.51	0.48	0.51	0.58
借入金償還年数 (年)	29年	12.3	11.9	13.8	10.6
	30年	13.9	12.9	16.2	10.2
	令和元年	19.1	23.6	18.1	8.8
	2年	▲ 39.8	▲ 25.3	▲ 54.2	32.2
	3年	109.2	▲ 32.4	15.6	18.3
	4年	14.0	25.4	12.0	5.5

4.売上構成比 <図 2、表 11>

総売上の内訳は「宿泊料理売上」「飲物売上」「売店売上」「その他売上」としています。

その他売上の割合が減少しましたが、各旅館ホテルにより計上する売上が大きく違います。エステやソーラーによる売電等の本業以外の収入もあるのではないかと考えられますが、詳しくは不明です。

(1)宿泊料理売上

総売上高に占める宿泊料理売上の割合は全体平均で 84.0%となり前年度から 1.6 ポイント減少、令和元年度から 11.3 ポイント増加しました。

- ・大規模 82.6% (前年度比 ▲3.4P ▲4.0% / 令和元年度比 +8.3P +11.2%)
- ・中規模 83.4% (前年度比 ▲3.5P ▲4.0% / 令和元年度比 +13.7P +19.7%)
- ・小規模 90.9% (前年度比 +10.5P +13.1% / 令和元年度比 +11.3P +14.2%)

黒字・赤字別

- ・全体 黒字：86.6% 赤字：77.5%
- ・大規模 黒字：86.1% 赤字：76.5%
- ・中規模 黒字：85.6% 赤字：76.2%
- ・小規模 黒字：90.6% 赤字：92.1%

(2)飲物売上

飲物売上の構成比は、全体平均で 3.2%、前年度と同じでした。令和元年度から 2.8 ポイント減少しました。

- ・大規模 3.0% (前年度比 +0.2P +7.1% / 令和元年度比 ▲1.4P ▲31.8%)
- ・中規模 3.4% (前年度比 +0.1P +3.0% / 令和元年度比 ▲4.3P ▲55.8%)
- ・小規模 3.4% (前年度比 ▲0.4P ▲10.5% / 令和元年度比 ▲2.9P ▲46.0%)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：3.3% 赤字：3.1%
- ・大規模 黒字：3.0% 赤字：3.1%
- ・中規模 黒字：3.5% 赤字：2.9%
- ・小規模 黒字：3.2% 赤字：4.2%

(3)売店売上

全体平均で 3.2%、前年度比 0.1 ポイント減少、令和元年度比 1.5 ポイント減少しました。

- ・大規模 4.3% (前年度比 ▲0.2P ▲4.4% / 令和元年度比 ▲1.8P ▲29.5%)
- ・中規模 2.4% (前年度比 ▲0.3P ▲11.1% / 令和元年度比 ▲1.0P ▲29.4%)
- ・小規模 1.8% (前年度比 ▲0.2P ▲10.0% / 令和元年度比 ▲2.1P ▲53.8%)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：3.2% 赤字：3.1%
- ・大規模 黒字：4.5% 赤字：3.8%
- ・中規模 黒字：2.4% 赤字：2.4%
- ・小規模 黒字：1.9% 赤字：1.1%

(4)その他売上

その他売上の構成比は、全体平均で9.6%、前年度比1.6ポイント増加、令和元年度比7.0ポイント減少しました。

- ・大規模 10.2% (前年度比 +3.4P +50.0% / 令和元年度比 ▲5.0P ▲32.9%)
- ・中規模 10.8% (前年度比 +3.8P +54.3% / 令和元年度比 ▲8.4P ▲43.8%)
- ・小規模 4.0% (前年度比 ▲9.8P ▲71.0% / 令和元年度比 ▲6.2P ▲60.8%)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：7.0% 赤字：16.2%
- ・大規模 黒字：6.5% 赤字：16.6%
- ・中規模 黒字：8.5% 赤字：18.5%
- ・小規模 黒字：4.2% 赤字：2.6%

図2 売上構成比 (単位：%)

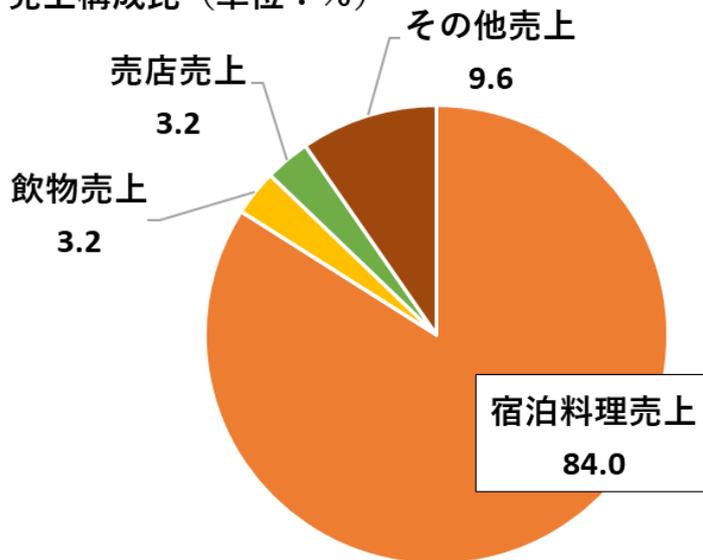


表11 売上構成比

(単位:%)

	年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
宿泊料 理売上	29年	74.5	72.6	76.3	80.2
	30年	76.1	73.5	78.4	81.3
	令和元年	72.7	74.3	69.7	79.6
	2年	81.3	82.0	81.5	77.9
	3年	85.6	86.0	86.9	80.4
	4年	84.0	82.6	83.4	90.9
飲物 売上	29年	5.4	4.8	6.1	5.3
	30年	4.9	5.2	4.7	4.5
	令和元年	6.0	4.4	7.7	6.3
	2年	3.0	3.0	3.1	2.8
	3年	3.2	2.8	3.3	3.8
	4年	3.2	3.0	3.4	3.4
売店 売上	29年	4.9	5.6	4.2	3.5
	30年	5.0	6.2	3.6	3.7
	令和元年	4.7	6.1	3.4	3.9
	2年	3.2	3.6	3.1	1.9
	3年	3.3	4.5	2.7	2.0
	4年	3.2	4.3	2.4	1.8
その他 売上	29年	15.2	16.9	13.3	11.0
	30年	14.0	15.0	13.3	10.6
	令和元年	16.6	15.2	19.2	10.2
	2年	12.5	11.4	12.3	17.4
	3年	8.0	6.8	7.0	13.8
	4年	9.6	10.2	10.8	4.0

5.原価率 <図 3、表 12>

(1)売上総原価率

$$\text{売上総原価率} = \text{原価} \div \text{総売上} \times 100$$

総原価率は全体平均で 24.1%（前年度より 1.5 ポイント増加、令和元年度より 0.8 ポイント増加）となりました。

- ・大規模 28.7%（前年度比 ▲1.7P ▲5.6% / 令和元年度比 +5.3P +22.6%）
- ・中規模 21.0%（前年度比 +0.2P +1.0% / 令和元年度比 ▲2.6P ▲11.0%）
- ・小規模 18.1%（前年度比 ▲2.3P ▲11.3% / 令和元年度比 ▲3.5P ▲16.2%）

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：20.4% 赤字：33.5%
- ・大規模 黒字：21.4% 赤字：41.4%
- ・中規模 黒字：20.3% 赤字：23.3%
- ・小規模 黒字：18.1% 赤字：17.8%

(2)料理材料比率

$$\text{料理材料比率} = \text{料理材料費} \div \text{宿泊売上} \times 100$$

全体平均で 18.2%となり、前年度比 0.4 ポイント増加、令和元年度比 3.5 ポイント減少しました。

- ・大規模 18.9%（前年度比 +1.0P +5.6% / 令和元年度比 ▲1.1P ▲5.5%）
- ・中規模 18.4%（前年度比 +0.5P +2.8% / 令和元年度比 ▲5.5P ▲22.8%）
- ・小規模 15.2%（前年度比 ▲1.5P ▲8.9% / 令和元年度比 ▲6.0P ▲28.2%）

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：17.6% 赤字：19.8%
- ・大規模 黒字：19.0% 赤字：18.8%
- ・中規模 黒字：17.3% 赤字：22.7%
- ・小規模 黒字：15.2% 赤字：15.0%

(3)飲料仕入率

$$\text{飲料仕入率} = \text{飲物仕入} \div \text{飲物売上} \times 100$$

全体平均で 36.6%となり、前年度比 0.7 ポイント増加、令和元年度比 2.8 ポイント増加しました。

- ・大規模 34.3%（前年度比 ▲7.2P ▲17.3% / 令和元年度比 +2.4P +7.5%）
- ・中規模 36.3%（前年度比 +3.8P +11.7% / 令和元年度比 +0.8P +2.3%）
- ・小規模 44.1%（前年度比 +9.3P +26.7% / 令和元年度比 +9.2P +26.4%）

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：35.0% 赤字：40.7%
- ・大規模 黒字：33.1% 赤字：36.4%
- ・中規模 黒字：33.8% 赤字：46.4%
- ・小規模 黒字：43.2% 赤字：48.1%

(4)売店仕入率

$$\text{売店仕入率} = \text{売店仕入} \div \text{売店売上} \times 100$$

全体平均で 54.7% となり、前年度比 7.6 ポイント減少、令和元年度比 9.7 ポイント減少しました。

- ・大規模 50.0% (前年度比 ▲12.3P ▲19.7% / 令和元年度比 ▲13.3P ▲21.0%)
- ・中規模 62.4% (前年度比 ▲3.1P ▲4.7% / 令和元年度比 ▲4.2P ▲6.3%)
- ・小規模 59.1% (前年度比 +10.4P +21.4% / 令和元年度比 ▲9.4P ▲13.7%)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：54.7% 赤字：54.7%
- ・大規模 黒字：50.7% 赤字：48.7%
- ・中規模 黒字：60.9% 赤字：67.5%
- ・小規模 黒字：56.1% 赤字：88.5%

表12 原価効率 (単位：%)

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
売上総原価率	29年	23.5	24.2	22.8	21.0
	30年	23.3	24.4	22.3	22.1
	令和元年	23.3	23.4	23.6	21.6
	2年	22.2	22.5	22.5	19.9
	3年	22.6	30.4	20.8	20.4
料理材料比率	29年	19.9	19.9	20.3	18.4
	30年	19.3	19.7	18.9	18.7
	令和元年	21.8	20.0	24.1	21.3
	2年	19.1	18.9	19.8	17.5
	3年	17.9	17.9	18.1	16.8
飲料仕入率	29年	33.3	34.5	31.7	34.5
	30年	33.5	32.1	35.2	34.4
	令和元年	33.8	31.9	35.5	34.9
	2年	38.9	38.2	51.8	41.5
	3年	35.9	41.5	32.5	34.8
売店仕入率	29年	67.5	67.7	67.5	65.1
	30年	65.5	64.5	67.0	68.6
	令和元年	64.4	63.3	66.6	68.5
	2年	65.6	65.4	66.1	65.7
	3年	62.3	62.3	65.5	48.7
4年	54.7	50.0	62.4	59.1	

図3 売上総原価率の推移(%)



6.経費率 <表 13>

当協会の統一会計基準のとおり、経費を人件費、営業費、業務費、管理費、減価償却費の5つに分類しています。

(1)人件費率

$$\text{人件費率} = \text{人件費} \div \text{総売上} \times 100$$

人件費は役員報酬、給料、退職金、法定福利費、厚生費、外注・委託費、求人費、教育研修費、賞与の合計です。

人件費率は全体平均で33.8%となり前年度より10.5ポイント減少、令和元年度より1.5ポイント減少しました。多くの旅館が雇用調整助成金の活用により社員の雇用を守ってきましたが、それでも社員数は減少していました。コロナ収束により少ない社員数で売上増となり、割合として減ったものと思われます。

通常、人件費率が40%を超えると経常利益は出にくいと言われています。

- ・大規模 32.7% (前年度比 ▲11.6P ▲26.2% / 令和元年度比 ▲2.4P ▲6.8%)
- ・中規模 34.8% (前年度比 ▲8.9P ▲20.4% / 令和元年度比 ▲0.4P ▲1.1%)
- ・小規模 34.1% (前年度比 ▲12.4P ▲26.7% / 令和元年度比 ▲2.7P ▲7.3%)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：33.3% 赤字：35.0%
- ・大規模 黒字：33.1% 赤字：31.9%
- ・中規模 黒字：33.2% 赤字：40.2%
- ・小規模 黒字：33.9% 赤字：35.1%

(2)営業費率

$$\text{営業費率} = \text{営業費} \div \text{総売上} \times 100$$

営業費は販売促進費、営業所費、営業交通費、接待交際費、広告宣伝費、販売手数料の合計です。

営業費率は全体平均で11.1%となり前年度より1.4ポイント減少、令和元年度より0.5ポイント減少しました。

前年度が大きく増加しましたので今回の調査では減少しましたが、コロナ禍以前と比べると増加しています。黒字旅館は自社ホームページからの予約や直予約のお客様が多いことが原因と思われます。

- ・大規模 11.3% (前年度比 ▲1.9P ▲14.4% / 令和元年度比 ▲1.7P ▲13.1%)
- ・中規模 11.2% (前年度比 ▲1.2P ▲9.7% / 令和元年度比 +0.8P +7.7%)
- ・小規模 10.2% (前年度比 ▲1.0P ▲8.9% / 令和元年度比 +0.3P +3.0%)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：10.6% 赤字：12.3%
- ・大規模 黒字：10.3% 赤字：13.0%
- ・中規模 黒字：11.2% 赤字：11.4%
- ・小規模 黒字：10.0% 赤字：11.3%

(3)業務費率

$$\text{業務費率} = \text{業務費} \div \text{総売上} \times 100$$

業務費はサービス費、備品消耗品費、修繕費、保守管理費、衛生費、車両費、水道光熱費、通信運搬費の合計です。

業務費率は全体平均で 16.1%となり前年度より 3.8 ポイント減少、令和元年度より 1.7 ポイント増加しました。

業務費は変動費の割合が多いと考えられますが、一部固定費もあり、コロナ禍と比べ大幅な売上減少により依然高い水準です。電気・ガス料金の高騰も影響しています。

- ・大規模 16.0% (前年度比 ▲1.2P ▲7.0% / 令和元年度比 +1.9P +13.5%)
- ・中規模 15.5% (前年度比 ▲6.5P ▲29.5% / 令和元年度比 +0.5P +3.3%)
- ・小規模 18.3% (前年度比 ▲1.4P ▲7.1% / 令和元年度比 +5.2P +39.7%)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：15.5% 赤字：17.7%
- ・大規模 黒字：16.2% 赤字：15.8%
- ・中規模 黒字：14.2% 赤字：19.8%
- ・小規模 黒字：17.5% 赤字：23.1%

(4)管理費率

$$\text{管理費率} = \text{管理費} \div \text{総売上} \times 100$$

管理費はリース料、会費・組合費、地代・家賃、顧問料・調査費、保険料、租税公課、事務消耗品費、雑費の合計であり多くは固定費です。

管理費率は全体平均で 9.3%となり前年度より 1.1 ポイント減少、令和元年度より 0.9 ポイント増加しました。売上が減少しても抑えることが難しい経費です。黒字旅館と赤字旅館では売上額の違いもあり大きく違ってきます。

- ・大規模 9.9% (前年度比 ▲3.1P ▲23.8% / 令和元年度比 +2.1P +26.9%)
- ・中規模 9.1% (前年度比 +0.5P +5.8% / 令和元年度比 ▲0.1P ▲1.1%)
- ・小規模 8.2% (前年度比 ▲1.3P ▲13.7% / 令和元年度比 +0.5P +6.5%)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：8.1% 赤字：12.5%
- ・大規模 黒字：7.0% 赤字：14.8%
- ・中規模 黒字：9.0% 赤字：9.6%
- ・小規模 黒字：8.2% 赤字：7.8%

(5)減価償却費率

$$\text{減価償却費率} = \text{減価償却費} \div \text{総売上} \times 100$$

建物や設備等の資産を毎年償却する額です。全体平均で 7.0%となり前年度より 3.0 ポイント減少しました。令和元年度より 1.3 ポイント増加しました。前年度比では減少しましたが、コロナ禍以前と比べると売上の減少により割合は増えています。

- ・大規模 6.6% (前年度比 ▲4.1P ▲38.3% / 令和元年度比 +0.4P +6.5%)
- ・中規模 7.3% (前年度比 ▲2.5P ▲25.5% / 令和元年度比 +2.0P +37.7%)
- ・小規模 7.4% (前年度比 ▲1.8P ▲19.6% / 令和元年度比 +1.8 +32.1%)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：6.9% 赤字：7.4%
- ・大規模 黒字：6.5% 赤字：6.7%
- ・中規模 黒字：7.0% 赤字：8.6%
- ・小規模 黒字：7.5% 赤字：6.7%

(6)支払利息率

$$\text{支払利息率} = \text{支払利息} \div \text{総売上} \times 100$$

総売上に占める支払利息の割合です。全体平均で 2.1% となり前年度より 1.3 ポイント減少、令和元年度より 0.1 ポイント増加しました。

いわゆるゼロゼロ融資により支払利息額自体はあまり増加していないと思われませんが、売上減少による既存の支払利息の割合が依然として多く問題です。

- ・大規模 2.5% (前年度比 ▲1.3P ▲34.2% / 令和元年度比 +0.2P +8.7%)
- ・中規模 2.0% (前年度比 ▲1.6P ▲44.4% / 令和元年度比 +0.1P +5.3%)
- ・小規模 1.3% (前年度比 ▲0.7P ▲35.0% / 令和元年度比 +0.2P +18.2%)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：1.8% 赤字：3.1%
- ・大規模 黒字：1.9% 赤字：3.5%
- ・中規模 黒字：1.8% 赤字：2.6%
- ・小規模 黒字：1.2% 赤字：1.4%

表13 経費率 (単位:%)

	年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
人件費率	29年	32.8	31.6	34.0	35.8
	30年	34.0	32.9	34.6	37.4
	令和元年	35.3	35.1	35.2	36.8
	2年	48.2	49.5	48.2	43.4
	3年	44.3	44.3	43.7	46.5
	4年	33.8	32.7	34.8	34.1
営業費率	29年	11.0	11.0	10.8	11.4
	30年	10.8	11.4	10.2	10.1
	令和元年	11.6	13.0	10.4	9.9
	2年	13.8	15.4	12.8	10.8
	3年	12.5	13.2	12.4	11.2
	4年	11.1	11.3	11.2	10.2
業務費率	29年	15.0	14.6	15.7	14.3
	30年	16.2	16.7	15.8	14.9
	令和元年	14.4	14.1	15.0	13.1
	2年	20.0	19.3	21.8	17.5
	3年	19.9	17.2	22.0	19.7
	4年	16.1	16.0	15.5	18.3
管理費率	29年	9.3	8.7	10.0	10.3
	30年	7.9	6.4	9.4	10.1
	令和元年	8.4	7.8	9.2	7.7
	2年	11.4	12.6	10.6	9.4
	3年	10.4	13.0	8.6	9.5
	4年	9.3	9.9	9.1	8.2
減価償却費率	29年	5.8	6.1	5.4	5.8
	30年	5.8	6.2	5.6	4.5
	令和元年	5.7	6.2	5.3	5.6
	2年	10.8	11.3	10.6	9.3
	3年	10.0	10.7	9.8	9.2
	4年	7.0	6.6	7.3	7.4
支払利息率	29年	2.0	2.3	1.7	1.3
	30年	1.9	1.9	2.0	1.2
	令和元年	2.0	2.3	1.9	1.1
	2年	3.9	4.0	2.8	6.8
	3年	3.4	3.8	3.6	2.0
	4年	2.1	2.5	2.0	1.3

7.利益率 <図 4、表 14、表 15、表 16>

総売上から原価を引いた売上総利益（粗利益）、そこから経費を引いた営業利益、さらに営業外損益を増減した後の経常利益等を集計しました。

(1)売上総利益率

$$\text{売上総利益率} = \text{売上総利益} \div \text{総売上} \times 100$$

全体平均で 75.9%となり、前年度より 1.5 ポイント減少、令和元年度より 0.8 ポイント減少しました。

- ・大規模 71.3%（前年度比 +1.7P +2.4% / 令和元年度比 ▲5.3P ▲6.9%）
- ・中規模 79.0%（前年度比 ▲0.2P ▲0.3% / 令和元年度比 +2.6P +3.4%）
- ・小規模 81.9%（前年度比 +2.3P +2.9% / 令和元年度比 +3.5P +2.2%）

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：79.6% 赤字：66.5%
- ・大規模 黒字：78.6% 赤字：58.6%
- ・中規模 黒字：79.7% 赤字：76.7%
- ・小規模 黒字：81.9% 赤字：82.2%

(2)営業利益率

$$\text{営業利益率} = \text{営業利益} \div \text{総売上} \times 100$$

全体平均でマイナス 1.4%でした。前年度より 18.3 ポイント増加しました。令和元年度より 2.7 ポイント減少しました。

規模が小さいほど回復が鮮明です。

- ・大規模 ▲5.2%（前年度比 +23.5P / 令和元年度比 ▲5.7P）
- ・中規模 1.0%（前年度比 +18.2P / 令和元年度比 ▲0.4P）
- ・小規模 3.7%（前年度比 +20.2P / 令和元年度比 ▲1.5P）

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：5.2% 赤字：▲18.4%
- ・大規模 黒字：5.4% 赤字：▲23.6%
- ・中規模 黒字：5.3% 赤字：▲13.0%
- ・小規模 黒字：4.7% 赤字：▲1.8%

(3)経常利益率

$$\text{経常利益率} = \text{経常利益} \div \text{総売上} \times 100$$

全体の平均は 4.2%でした。前年度から 12.1 ポイント増加、令和元年度から 2.3 ポイント増加しました。

雇用調整助成金や各種補助金等の営業外収入により営業利益より改善しています。

また規模や地域により大きく違っています。北海道の回復が遅れています。

- ・大規模 0.0%（前年度比 +18.6P / 令和元年度比 ▲0.4P）
- ・中規模 6.2%（前年度比 +1.0P / 令和元年度比 +4.3P）
- ・小規模 12.0%（前年度比 +11.7P / 令和元年度比 +3.3P）

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：12.3% 赤字：▲16.6%
- ・大規模 黒字：12.6% 赤字：▲21.9%
- ・中規模 黒字：11.7% 赤字：▲12.1%
- ・小規模 黒字：13.1% 赤字：▲5.3%

(5)償却前経常利益率

$$\text{償却前経常利益率} = (\text{経常利益} + \text{減価償却額}) \div \text{総売上} \times 100$$

全体平均は 11.2%で、前年度から 9.0 ポイント増加、令和元年度から 3.6 ポイント増加しました。

- ・大規模 6.6% (前年度比 +14.5 P / 令和元年度比 ±0.0P)
- ・中規模 13.5% (前年度比 ▲1.5P / 令和元年度比 +6.3P)
- ・小規模 19.3% (前年度比 +9.8P / 令和元年度比 +14.5P)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：19.2% 赤字：▲9.2%
- ・大規模 黒字：19.1% 赤字：▲15.2%
- ・中規模 黒字：18.7% 赤字：▲3.5%
- ・小規模 黒字：20.6% 赤字：▲11.9%

図4 営業利益率の推移(%)

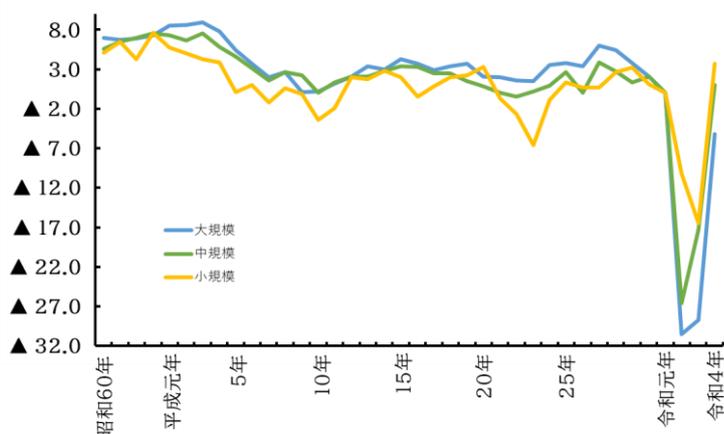


表14 利益率

(単位: %)

年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)	
売上総利益率	29年	76.5	75.8	77.2	79.0
	30年	76.7	75.6	77.7	77.9
	令和元年	76.7	76.6	76.4	78.4
	2年	77.8	77.5	77.5	80.1
	3年	77.4	69.6	79.2	79.6
	4年	75.9	71.3	79.0	81.9
営業利益率	29年	2.7	3.8	1.3	1.5
	30年	2.0	2.1	2.1	1.1
	令和元年	1.3	0.5	1.4	5.2
	2年	▲26.5	▲30.5	▲26.6	▲10.2
	3年	▲19.7	▲28.7	▲17.2	▲16.5
	4年	▲1.4	▲5.2	1.0	3.7

表15 利益率

(単位:%)

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
経常利益率	29年	2.9	3.8	1.8	1.8
	30年	2.3	2.3	2.1	2.8
	令和元年	1.9	0.4	1.9	8.7
	2年	▲ 16.3	▲ 20.3	▲ 14.9	▲ 4.5
	3年	▲ 7.9	▲ 18.6	5.2	0.3
	4年	4.2	0.0	6.2	12.0
償却前経常利益率	29年	8.3	9.9	7.2	7.6
	30年	8.1	8.5	7.8	7.3
	令和元年	7.6	6.6	7.2	14.3
	2年	▲ 5.5	▲ 9.1	▲ 4.3	4.8
	3年	2.2	▲ 7.9	15.0	9.5
	4年	11.2	6.6	13.5	19.3

表16 地域別経常利益率 (単位:%)

	地域別 経常利益率
全体	4.2
大規模	0.0
中規模	6.2
小規模	12.0
北海道	▲ 6.0
東北	16.2
関東	9.4
北陸信越	4.3
中部	13.8
関西	5.1
中国	4.5
四国	7.5
九州	▲ 0.9
黒字	12.3
赤字	▲ 16.6

8.GOP <表17>

宿泊業の指標として重要視されている GOP（償却前営業利益）も集計しました。GOP は Gross Operating Profit の略で、運営総利益を表します。EBITDA に近い指標です。

(1) 総売上対GOP率

$$\text{総売上対GOP率} = \text{GOP(営業利益+減価償却費)} \div \text{総売上} \times 100$$

全体平均で 5.6% となり、前年度より 15.3 ポイント増加、令和元年度より 1.4 ポイント減少しました。

- ・大規模 1.4%（前年度比 +19.4P / 令和元年度比 ▲5.3P）
- ・中規模 8.4%（前年度比 +15.9P / 令和元年度比 +1.7P）
- ・小規模 11.1%（前年度比 +18.4P / 令和元年度比 +0.2P）

黒字・赤字別では、

- ・黒字：12.1% 赤字：▲11.0%

(2) 借入金対 GOP 率

$$\text{借入金対 GOP 率} = \text{GOP(営業利益+減価償却費)} \div \text{長短借入金} \times 100$$

装置産業である旅館業はどうしても借入金が多くなりがちですので、この指標も作成しました。

全体平均で 3.6% となり、前年度より 7.6 ポイント増加、令和元年度より 1.2 ポイント減少しました。

- ・大規模 0.8%（前年度比 +7.8P / 令和元年度比 ▲3.5P）
- ・中規模 5.1%（前年度比 +8.3P / 令和元年度比 ±0.0P）
- ・小規模 10.5%（前年度比 +14.7P / 令和元年度比 +11.1P）

黒字・赤字別では、

- ・黒字：8.2% 赤字：▲6.1%

(3) 1 室当り GOP 額

$$\text{1 室当り GOP 額} = \text{GOP(営業利益+減価償却費)} \div \text{客室数}$$

全体平均で 558.7 千円となり、前年度より 1140.6 千円改善、令和元年度より 126.3 千円減少しました。

- ・大規模 129.4 千円（前年度比 +1,008.5 千円 / 令和元年度比 ▲532.0 千円）
- ・中規模 865.4 千円（前年度比 +1,399.3 千円 / 令和元年度比 +206.1 千円）
- ・小規模 1367.7 千円（前年度比 +1,899.2 千円 / 令和元年度比 +267.7 千円）

黒字・赤字別では、

- ・黒字：1,369.3 千円 赤字：▲835.8 千円

(4) 1 m²当り GOP 額

$$\text{1 m}^2\text{当り GOP 額} = \text{GOP(営業利益+減価償却費)} \div \text{延床面積}$$

全体平均で 4.0 千円となり、前年度より 8.6 千円改善、令和元年度より 1.6 千円減少しました。

- ・大規模 0.9 千円（前年度比 +8.0 千円 / 令和元年度比 ▲4.4 千円）
- ・中規模 5.9 千円（前年度比 +9.8 千円 / 令和元年度比 +0.4 千円）
- ・小規模 10.0 千円（前年度比 +14.7 千円 / 令和元年度比 +1.0 千円）

黒字・赤字別では、

・黒字：9.5 千円 赤字：▲6.8 千円

表17 売上構成比

年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)	
総売上高対G O P 率(%)	29年	8.5	9.9	6.7	7.2
	30年	7.8	8.3	7.7	5.5
	令和元年	7.0	6.7	6.7	10.9
	2年	▲15.7	▲19.3	▲15.9	▲1.0
	3年	▲9.7	▲18.0	▲7.5	▲7.3
	4年	5.6	1.4	8.4	11.1
借入金対G O P 率(%)	29年	7.7	8.4	6.9	8.7
	30年	7.7	7.6	6.1	7.1
	令和元年	4.8	4.3	5.1	8.6
	2年	▲7.2	▲8.4	▲6.9	▲0.6
	3年	▲4.1	▲7.0	▲3.2	▲4.2
	4年	3.6	0.8	5.1	10.5
1室あたりG O P 額(千円)	29年	1,060.3	1,340.6	756.8	727.9
	30年	921.7	954.1	950.5	629.5
	令和元年	685.0	661.4	659.3	1,100.0
	2年	▲1,075.2	▲1,346.4	▲1,030.0	▲83.6
	3年	▲581.9	▲879.1	▲533.9	▲531.5
	4年	558.7	129.4	865.4	1,367.7
1㎡あたりG O P 額(千円)	29年	7.1	8.8	5.2	6.0
	30年	7.0	8.4	5.8	4.9
	令和元年	5.6	5.3	5.5	9.0
	2年	▲7.0	▲8.2	▲7.3	▲0.6
	3年	▲4.6	▲7.1	▲3.9	▲4.7
	4年	4.0	0.9	5.9	10.0

9.定員稼働率・客室稼働率 <図 5、表 18、表 19>

稼働率は定員を基準とする「定員稼働率」と客室を基準とする「客室稼働率」があります。団体旅行の多い時代には定員稼働率が重視されましたが、個人化が進んだ現在は客室稼働率の方が重要です。

(1)定員稼働率

定員稼働率=宿泊人員÷(収容定員×営業日数)×100

全体では 36.1%で、前年度から 14.8 ポイント増加、令和元年度から 0.3 ポイント減少しました。全ての規模において前年度比改善しましたが、大規模はコロナ前には及んでいません。団体のお客様の戻りが遅いことによるものと思われます。

- ・大規模 32.4% (前年度比 +11.0P +51.4% / 令和元年度比 ▲5.0P ▲13.4%)
 - ・中規模 37.4% (前年度比 +23.6P +171.0% / 令和元年度比 +1.7P +4.8%)
 - ・小規模 37.9% (前年度比 +14.7P +63.4% / 令和元年度比 +9.4P +33.0%)
- 黒字・赤字別では、
- ・黒字 38.0% ・赤字 32.7%

(2)客室稼働率

客室稼働率=利用客室数÷(客室数×営業日数)×100

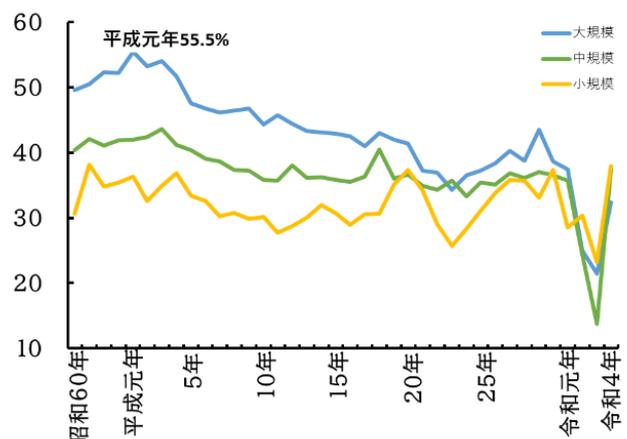
全体平均は 57.9%で前年度から 21.6ポイント増加、令和元年度から 3.9ポイント減少しました。全ての規模において増加しました。規模が小さいほど高い稼働率となっています。

- ・大規模 53.0% (前年度比 +18.0P +51.4% / 令和元年度比 ▲11.2P ▲17.4%)
 - ・中規模 62.3% (前年度比 +22.1P +55.0% / 令和元年度比 +1.1P +1.8%)
 - ・小規模 65.2% (前年度比 +26.6P +68.9% / 令和元年度比 +14.9P +29.6%)
- 黒字・赤字別では、
- ・黒字 59.8% ・赤字 53.1%

表18 稼働率・1室当り宿泊利用人員

年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)	
定員稼働率(%)	29年	40.2	43.5	37.0	33.1
	30年	38.1	38.7	36.5	37.3
	令和元年	36.4	37.4	35.7	28.5
	2年	25.1	25.0	24.4	30.4
	3年	21.3	21.4	13.8	23.2
4年	36.1	32.4	37.4	37.9	
客室稼働率(%)	29年	68.0	73.8	63.0	55.0
	30年	64.0	64.5	64.6	57.4
	令和元年	61.8	64.2	61.2	50.3
	2年	45.5	44.6	46.8	49.5
	3年	36.3	35.0	40.2	38.6
4年	57.9	53.0	62.3	65.2	
宿泊利用人員(1室当り)	29年	2.65	2.58	2.74	2.64
	30年	2.58	2.47	2.73	2.60
	令和元年	2.49	2.71	2.50	2.27
	2年	2.40	2.26	2.40	3.74
	3年	2.25	2.20	1.40	2.20
4年	2.29	2.32	2.22	2.41	

図5 定員稼働率の推移(%)



(3)1 室当り宿泊利用人員

前年よりは増加していますが、コロナ以前と比べると大規模・中規模で減っています。団体・グループのお客様が減少し、個人のお客様が増加したからです。

(4)地域別稼働率

地域により稼働率が大きく違ってきています。東北・北海道の回復が遅れています。インバウンドの回復が原因かもしれません。

旅館により様々ですが、一般的に客室稼働率60%を切ると営業利益が黒字になることは困難だと言われています。次年度調査はコロナ禍が収束した決算書に基づくものとなりますので、各地域において客室稼働率60%超になることを期待しています。

表19 地域別稼働率 (単位:%)

地域		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
定員稼働率	北海道	33.4	34.4	32.3	26.8
	東北	28.5	26.9	-	32.5
	関東	37.2	30.4	38.2	43.3
	北陸信越	34.7	-	34.3	49.1
	中部	39.4	-	43.7	45.9
	関西	42.8	37.2	42.1	45.4
	中国	34.7	33.0	34.8	37.9
	四国	33.2	37.7	35.0	17.3
	九州	41.8	-	43.1	53.3
客室稼働率	北海道	53.7	53.5	54.3	56.0
	東北	45.9	45.4	-	41.8
	関東	62.5	57.1	64.2	65.3
	北陸信越	60.0	-	65.0	55.1
	中部	61.6	-	61.7	75.8
	関西	63.2	59.7	63.4	69.4
	中国	58.8	50.3	64.4	66.7
	四国	61.8	56.7	64.1	72.2
	九州	58.7	-	60.1	70.1

10. 宿泊客 1 人当り総単価 <図 6、表 20、表 21>

宿泊客 1 人当りの単価は、年間総売上を年間宿泊客数で除して求めています。

(1) 宿泊客 1 人当り総単価

1 人当り総単価 = 総売上 ÷ 年間宿泊人員

全体の平均は 22,352 円となり、前年度から 2,385 円増加、令和元年度から 3,286 円増加しました。

- ・ 大規模 21,461 円 (前年度比 +4,135 円 +23.9% / 令和元年度比 +1,922 円 +9.8%)
- ・ 中規模 22,402 円 (前年度比 +1,076 円 +5.0% / 令和元年度比 +3,792 円 +20.4%)
- ・ 小規模 25,742 円 (前年度比 +1,714 円 +7.1% / 令和元年度比 +974 円 +3.9%)

黒字・赤字別では、

- ・ 黒字 : 23,247 円
- ・ 赤字 : 20,344 円

全ての規模により増加しました。仕入価格や人件費・水道光熱費等、多くの支出が増加し宿泊単価を上げた結果と考えられます。インバウンドのお客様が円安により高単価を出して頂いていることも影響していると思われます。

(2) 宿泊客 1 人当り宿泊料理単価

1 人当り宿泊料理単価 = 宿泊料理売上 ÷ 宿泊人員

全体平均は 18,782 円となり、前年度から 1,694 円増加、令和元年度から 5,067 円増加しました。

- ・ 大規模 17,719 円 (前年度比 +2,816 円 +18.9% / 令和元年度比 +3,194 円 +22.0%)
- ・ 中規模 18,687 円 (前年度比 +151 円 +0.8% / 令和元年度比 +5,823 円 +45.3%)
- ・ 小規模 23,389 円 (前年度比 +4,078 円 +21.1% / 令和元年度比 +3,827 円 +19.6%)

黒字・赤字別では、

- ・ 黒字 20,126 円
- ・ 赤字 15,768 円

(3) 宿泊客 1 人当り飲物単価

1 人当り飲物単価 = 飲物売上 ÷ 宿泊人員

全体平均は 718 円となり、前年度から 80 円増加、令和元年度から 495 円減少しました。

- ・ 大規模 650 円 (前年度比 +172 円 +36.0% / 令和元年度比 ▲202 円 ▲23.7%)
- ・ 中規模 754 円 (前年度比 +40 円 +5.6% / 令和元年度比 ▲794 円 ▲51.3%)
- ・ 小規模 864 円 (前年度比 ▲49 円 ▲5.4% / 令和元年度比 ▲818 円 ▲48.6%)

黒字・赤字別では、

- ・ 黒字 756 円
- ・ 赤字 634 円

前年よりは増加しましたが、長期的には団体のお客様が減少したことにより低下傾向です。

(4) 宿泊客 1 人当り売店単価

1 人当り売店単価 = 売店売上 ÷ 宿泊人員

全体平均は 707 円となり、前年度から 55 円増加、令和元年度から 266 円減少しました。

- ・大規模 912 円 (前年度比 +137 円 +17.7% / 令和元年度比 ▲286 円 ▲23.9%)
- ・中規模 545 円 (前年度比 ▲29 円 ▲5.1% / 令和元年度比 ▲171 円 ▲23.9%)
- ・小規模 468 円 (前年度比 ▲23 円 ▲4.7% / 令和元年度比 ▲557 円 ▲54.3%)

黒字・赤字別では、

- ・黒字 739 円
- ・赤字 636 円

(5) 宿泊客 1 人当りその他単価

1 人当りその他単価 = その他売上 ÷ 宿泊人員

全体平均は 2,144 円となり、前年度から 555 円増加、令和元年度から 1,022 円減少しました。

- ・大規模 2,180 円 (前年度比 +1,010 円 +86.3% / 令和元年度比 ▲785 円 ▲26.5%)
- ・中規模 2,417 円 (前年度比 +914 円 +60.8% / 令和元年度比 ▲1,065 円 ▲30.6%)
- ・小規模 1,022 円 (前年度比 ▲2,291 円 ▲69.2% / 令和元年度比 ▲1,476 円 ▲59.1%)

黒字・赤字別では、

- ・黒字 1,626 円
- ・赤字 3,306 円

表20 宿泊客1人当りの総売上高 (単位:円)

年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
29 年	19,589	20,145	18,662	20,431
30 年	20,589	20,334	20,707	21,704
令和元年	19,066	19,539	18,610	24,768
2 年	21,239	23,298	20,024	29,216
3 年	19,967	17,326	21,326	24,028
4 年	22,352	21,461	22,402	25,742

図6 客1人当り総売上高の推移

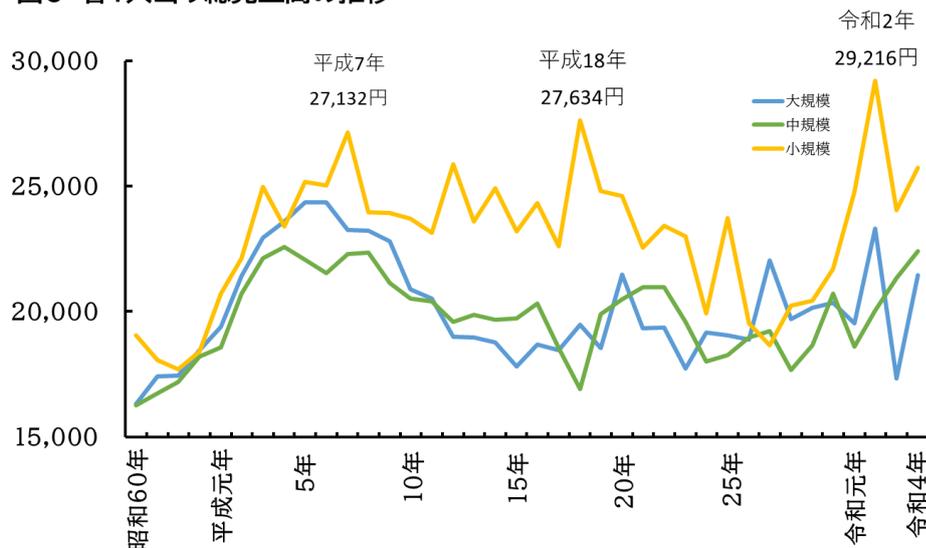


表21 宿泊客1人当り売上高 (単位:円)

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
宿泊料 理売上	29年	14,604	14,635	14,254	16,390
	30年	15,670	14,951	16,233	17,639
	令和元年	13,715	14,525	12,864	19,562
	2年	17,267	19,099	16,330	22,750
	3年	17,088	14,903	18,536	19,311
	4年	18,782	17,719	18,687	23,389
飲物 売上	29年	1,047	976	1,140	1,086
	30年	1,016	1,052	977	971
	令和元年	1,213	852	1,548	1,682
	2年	635	695	611	826
	3年	638	478	714	913
	4年	718	650	754	864
売店 売上	29年	960	1,119	778	719
	30年	1,023	1,271	742	797
	令和元年	973	1,198	716	1,025
	2年	683	849	620	552
	3年	652	775	574	491
	4年	707	912	545	468
その他 売上	29年	2,977	3,414	2,489	2,237
	30年	2,879	3,060	2,755	2,297
	令和元年	3,166	2,965	3,482	2,498
	2年	2,654	2,655	2,463	5,088
	3年	1,589	1,170	1,503	3,313
	4年	2,144	2,180	2,417	1,022

11. 売上効率 <図 7、表 22>

(1) 1 室当り売上高

宿泊業にとって客室 1 室当りの年間売上は重要な指標です。

全体では 9,949 千円と前年度比 62.4%増加、令和元年度比 4.2%減少しました。

前年度比大きく改善しましたが、大規模・中規模はコロナ禍以前と比べると回復途上です。

- ・大規模 9,087 千円 (前年度比 +4,200 千円 +85.9% / 令和元年度比 ▲933 千円 ▲9.3%)
- ・中規模 10,358 千円 (前年度比 +3,143 千円 +43.6% / 令和元年度比 ▲452 千円 ▲4.2%)
- ・小規模 12,344 千円 (前年度比 +5,041 千円 +69.0% / 令和元年度比 +2,074 千円 +20.2%)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：11,319 千円 赤字：7,594 千円
- ・大規模 黒字：10,769 千円 赤字：7,147 千円
- ・中規模 黒字：11,099 千円 赤字：8,486 千円
- ・小規模 黒字：13,851 千円 赤字：7,599 千円

1 室当りの売上高を増加させることが黒字化へのひとつの道筋となっています。

(2) ADR (1 日 1 室当り客室平均単価) (Average Daily Rate の略)

全体では 51,568 円と前年度比 13,301 円増加、令和元年度比 17,380 円増加しました。

- ・大規模 49,852 円 (前年度比 +16,814 円 +50.9% / 令和元年度比 +10,473 円 +26.6%)
- ・中規模 50,715 円 (前年度比 +8,318 円 +19.6% / 令和元年度比 +18,492 円 +57.4%)
- ・小規模 61,942 円 (前年度比 +19,675 円 +46.5% / 令和元年度比 +17,506 円 +39.4%)

黒字、赤字別では、

- ・黒字 55,763 円
- ・赤字 43,228 円

(3) RevPAR (1 日 1 室当りの売上=客室稼働率×ADR) (Revenue Per Available Room の略)

全体では 29,592 円と前年度比 12,802 円増加、令和元年度比 8,472 千円増加しました。

- ・大規模 26,431 円 (前年度比 +13,128 円 +98.7% / 令和元年度比 +1,148 円 +4.5%)
- ・中規模 30,902 円 (前年度比 +11,184 円 +56.7% / 令和元年度比 +11,172 円 +56.6%)
- ・小規模 40,401 円 (前年度比 +19,413 円 +92.5% / 令和元年度比 +18,049 円 +80.7%)

黒字・赤字別では、

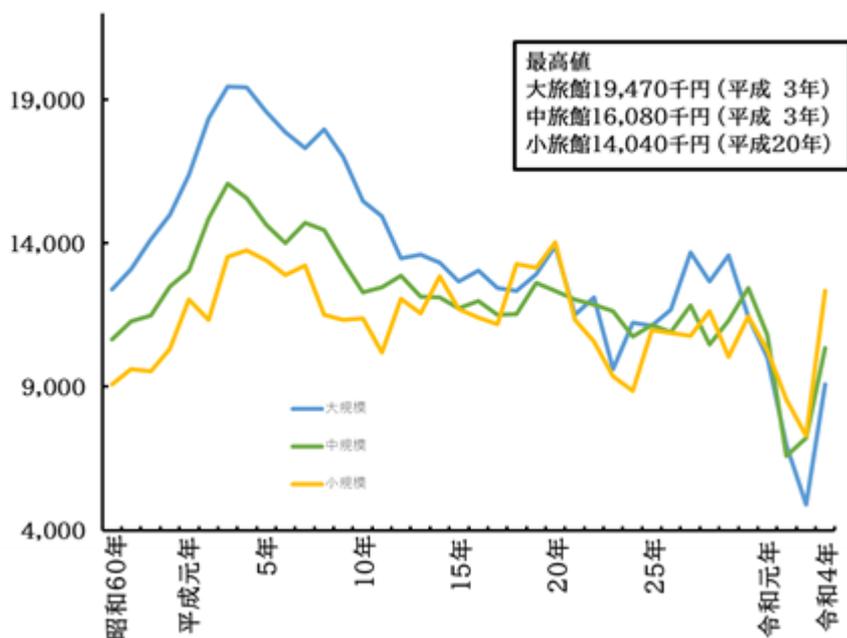
- ・黒字 33,365 円
- ・赤字 22,941 円

他の旅館と売上効率を比較するうえで、重宝する指標です。小規模ほど高くなっています。

表22 売上効率

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
1室 当り 売上 高 (千円)	29年	12,360	13,580	11,310	10,050
	30年	11,820	11,440	12,440	11,460
	令和元年	10,380	10,020	10,810	10,270
	2年	6,966	6,954	6,588	8,559
	3年	6,126	4,887	7,215	7,303
	4年	9,949	9,087	10,358	12,344
ADR (円)	29年	38,924	38,125	39,288	43,756
	30年	39,478	34,902	44,580	46,562
	令和元年	34,188	39,379	32,223	44,436
	2年	43,641	43,643	41,936	50,118
	3年	38,267	33,038	42,397	42,267
	4年	51,568	49,852	50,715	61,942
RevPAR (円)	29年	26,452	28,131	24,751	24,071
	30年	25,307	23,322	28,047	25,892
	令和元年	21,120	25,283	19,730	22,352
	2年	19,733	19,278	19,012	25,312
	3年	16,790	13,303	19,718	20,988
	4年	29,592	26,431	30,902	40,401

図7 1室当り売上の推移



12.就業者・就業者効率 <図 8、表 23、表 24、表 25>

旅館ホテル業には様々な雇用形態が存在しますが、本調査では常勤役員、正社員、パートタイマー、アルバイト、派遣社員の合計を就業者としています。

(1) 就業者数

=常勤役員+正社員+パートタイマー、アルバイト、派遣社員

全体の平均は 69 人で前年度比 8 人増加、令和元年度比 5 人減少となりました。

- ・大規模 146 人 (前年度比 +30 人 +25.9% / 令和元年度比 +4 人 +2.8%)
- ・中規模 72 人 (前年度比 ▲1 人 ▲1.4% / 令和元年度比 ▲6 人 ▲7.7%)
- ・小規模 28 人 (前年度比 +2 人 +7.7% / 令和元年度比 +5 人 +21.7%)

表23 就業者数 (単位:人)

年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
29 年	80	174	72	28
30 年	91	178	90	31
令和元年	74	142	78	23
2 年	68	161	63	25
3 年	61	116	73	26
4 年	69	146	72	28

(2)1 室当り就業者数

1 室当り就業者数 = 就業者数 ÷ 客室数

1 室当りの就業者数は規模全体で 1.08 人であり前年度から 10.2%増加、令和元年度から 2.9%増加しました。

規模別では

- ・大規模 0.85 人 (前年度比 +0.21 人 +32.8% / 令和元年度比 +0.03 人 +3.7%)
- ・中規模 1.24 人 (前年度比 ▲0.01 人 ▲0.8% / 令和元年度比 ▲0.04 人 ▲3.1%)
- ・小規模 1.50 人 (前年度比 +0.12 人 +8.7% / 令和元年度比 +0.25 人 +20.0%)

黒字・赤字別では、

- ・黒字 : 1.20 人 赤字 : 0.88 人

(3)就業者数 1 人当り年間宿泊人員

就業者数 1 人当り年間宿泊人員 = 年間宿泊利用人員 ÷ 就業者数

就業者 1 人当りの宿泊人員は規模全体で 413 人であり前年度から 32.4%増加、令和元年度から 23.5%減少しました。

規模別では

- ・大規模 498 人 (前年度比 +59 人 +13.4% / 令和元年度比 ▲190 人 ▲27.6%)
- ・中規模 372 人 (前年度比 +104 人 +38.8% / 令和元年度比 ▲89 人 ▲19.3%)
- ・小規模 320 人 (前年度比 +100 人 +45.5% / 令和元年度比 ▲45 人 ▲12.3%)

黒字・赤字別では、

・黒字：407人 赤字：426人

(4)就業者一人当り売上高

就業者一人当り売上高 = 総売上 ÷ 就業者数

本調査では常勤役員、社員、パートタイマー・アルバイト、派遣社員を就業者として算出しています。全体平均は9,227千円で前年度比48.2%増加、令和元年度比15.3%減少でした。

- ・大規模 10,687千円 (前年度比 +3,076千円 +40.4% / 令和元年度比 ▲2,763千円 ▲20.5%)
- ・中規模 8,329千円 (前年度比 +2,612千円 +45.7% / 令和元年度比 ▲901千円 ▲9.8%)
- ・小規模 8,235千円 (前年度比 +2,944千円 +55.6% / 令和元年度比 ▲1,265千円 ▲13.3%)

黒字・赤字別では、

- ・黒字 9,469千円
- ・赤字 8,659千円

(5)就業者1人当り人件費

就業者1人当り人件費 = 人件費(外注費等も含む) ÷ 就業者数

人件費は協会の統一会計基準における科目を全て含みます。規模全体で3,114千円であり前年度から12.9%増加、令和元年度比18.7%減少しました。

規模別では

- ・大規模 3,491千円 (前年度比 +123千円 +3.7% / 令和元年度比 ▲1,229千円 ▲26.0%)
- ・中規模 2,899千円 (前年度比 +403千円 +16.1% / 令和元年度比 ▲321千円 ▲10.0%)
- ・小規模 2,810千円 (前年度比 +350千円 +14.2% / 令和元年度比 ▲700千円 ▲19.9%)

黒字・赤字別では、

- ・黒字：3,149千円
- 赤字：3,032千円

表24 従業員効率

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
就業者数(人) 1室当り	29年	1.19	1.05	1.30	1.48
	30年	1.31	1.06	1.58	1.64
	令和元年	1.05	0.82	1.28	1.25
	2年	1.07	1.00	1.11	1.31
	3年	0.98	0.64	1.25	1.38
	4年	1.08	0.85	1.24	1.50
年間就業者1人当り 宿泊人員(人)	29年	532	643	465	336
	30年	438	529	378	322
	令和元年	540	688	461	365
	2年	285	240	283	296
	3年	312	439	268	220
	4年	413	498	372	320
売上高(千円) 就業者1人当り	29年	10,400	12,950	8,690	6,700
	30年	9,000	10,750	7,800	6,980
	令和元年	10,890	13,450	9,230	9,500
	2年	6,059	6,551	5,390	6,282
	3年	6,226	7,611	5,717	5,291
	4年	9,227	10,687	8,329	8,235
人件費(千円) 就業者1人当りの	29年	3,410	4,090	2,950	2,420
	30年	3,060	3,540	2,700	2,610
	令和元年	3,830	4,720	3,220	3,510
	2年	2,928	3,240	2,644	2,710
	3年	2,759	3,368	2,496	2,460
	4年	3,114	3,491	2,899	2,810

(6)労働生産性

労働生産性 = 売上総利益 ÷ 就業者数

労働生産性を上記の計算式で算出しました。全体平均は 7,007 千円で、前年度から 2,288 千円増加、令和元年度から 373 千円減少しました。

労働集約型産業である旅館にとって労働生産性の向上は発展のうえで不可欠です。優秀な人材を確保し、付加価値を高め、労働生産性の更なる向上が必要です。

- ・大規模 7,619 千円 (前年度比 +1,943 千円 +34.2% / 令和元年度比 ▲1,341 千円 ▲15.0%)
- ・中規模 6,582 千円 (前年度比 +2,271 千円 +52.7% / 令和元年度比 +152 千円 +2.4%)
- ・小規模 6,745 千円 (前年度比 +2,512 千円 +59.3% / 令和元年度比 +585 千円 +9.5%)

黒字・赤字別では、

- ・黒字 : 7,538 千円 赤字 : 5,763 千円

労働生産性の違いが黒字・赤字を分けた要因のひとつと考えられます。

(7)労働分配率

労働分配率 = 人件費 ÷ 売上総利益 × 100

売上総利益に占める人件費の割合が労働分配率です。全体平均では 44.4%で、前年度から 14.1 ポイント減少、令和元年度から 1.8 ポイント減少しました。

労働分配率は高ければ利益を圧迫しますが、低ければ良いとは限りません。付加価値が高まり低くなるのは良いのですが、給料を安くする等した結果で低くなるのは問題です。

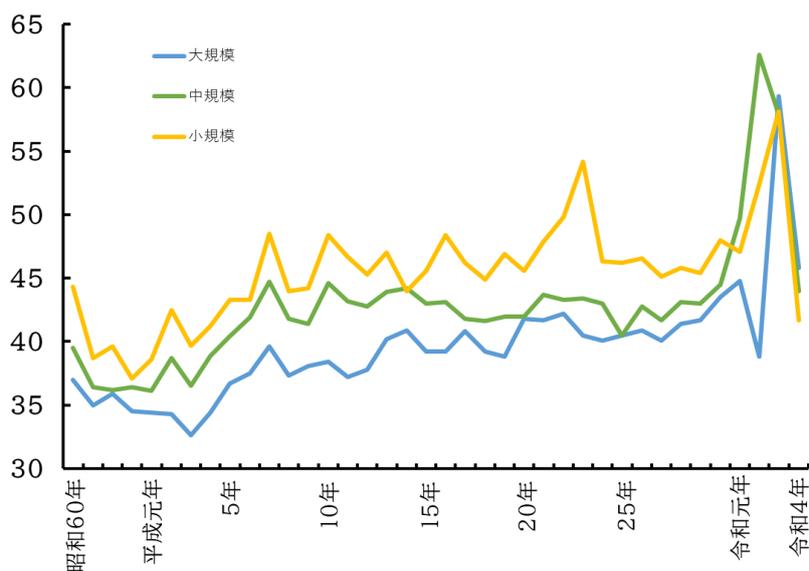
- ・大規模 45.8% (前年度比 ▲13.5P ▲22.8% / 令和元年度比 +1.0P +2.2%)
- ・中規模 44.0% (前年度比 ▲13.9P ▲24.0% / 令和元年度比 ▲5.7P ▲11.5%)
- ・小規模 41.7% (前年度比 ▲16.4P ▲28.2% / 令和元年度比 ▲5.4P ▲11.5%)

黒字・赤字別では、黒字：41.8% 赤字：52.6%

表25 労働生産性、労働分配率

年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)	
労働生産性 (千円)	29年	7,960	9,820	6,700	5,260
	30年	6,900	8,130	6,070	5,440
	令和元年	7,380	8,960	6,430	6,160
	2年	4,728	8,358	4,224	5,167
	3年	4,719	5,676	4,311	4,233
	4年	7,007	7,619	6,582	6,745
労働分配率 (%)	29年	42.8	41.7	44.0	45.4
	30年	44.3	43.5	44.5	48.0
	令和元年	46.2	44.8	49.7	47.1
	2年	61.9	38.8	62.6	52.4
	3年	58.5	59.3	57.9	58.1
	4年	44.4	45.8	44.0	41.7

図8 労働分配率の推移(%)



13.延床面積効率<表 26>

(1)1 室当り延べ面積=延べ面積÷客室数

全体平均では 141 m²となり、前年度と比べ 13.0 m²増加、令和元年度と比べ 19.0 m²増加しました。

- ・大規模 138 m² (前年度比 +14 m² +11.3% / 令和元年度比 +12 m² +9.5%)
- ・中規模 146 m² (前年度比 +9.0 m² +6.6% / 令和元年度比 +26 m² +21.7%)
- ・小規模 136 m² (前年度比 +24 m² +21.4% / 令和元年度比 +16 m² +13.3%)

黒字・赤字別では、

- ・黒字：143 m² 赤字：137 m²

(2)定員 1 人当り延べ面積

定員 1 人当り延べ面積=延べ面積÷収容人員

全体平均は 36.8 m²で前年度比 3.4 m²増加、令和元年度比 7.2 m²増加しました。

- ・大規模 36.0 m² (前年度比 +2.1 m² +6.2% / 令和元年度比 +3.0 m² +9.1%)
- ・中規模 39.3 m² (前年度比 +5.7 m² +17.0% / 令和元年度比 +11.1 m² +39.4%)
- ・小規模 32.3 m² (前年度比 +1.1 m² +3.5% / 令和元年度比 +4.8 m² +17.5%)

黒字・赤字別では、

- ・黒字：36.7 m² 赤字：37.1 m²

(3)延床面積 1 m²当り売上高

延床面積 1 m²当り売上=総売上÷延床面積

延床面積当り売上は、装置産業である宿泊業にとって投資効率を分析するのに適した指標です。

全体では 70.5 千円と、前年度比 22.5 千円増加、令和元年度比 9.9 千円減少しました。

- ・大規模 65.7 千円 (前年度比 +26.1 千円 +65.9% / 令和元年度比 ▲14.3 千円 ▲17.9%)
- ・中規模 71.1 千円 (前年度比 +18.6 千円 +35.4% / 令和元年度比 ▲18.9 千円 ▲21.0%)
- ・小規模 90.5 千円 (前年度比 +25.5 千円 +39.2% / 令和元年度比 +10.0 千円 +12.4%)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：78.9 千円 赤字：55.4 千円
- ・大規模 黒字：71.9 千円 赤字：57.1 千円
- ・中規模 黒字：78.3 千円 赤字：54.5 千円
- ・小規模 黒字：107.0 千円 赤字：47.9 千円

各種補助金を活用し、2室を1室に、3室を2室にする等の改装をした旅館が多くありますので、1室当りや定員1人当りの数値が高くなりました。

表26 延床面積効率

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
1室当り延べ面積(㎡)	29年	147	154	145	116
	30年	146	131	165	128
	令和元年	122	126	120	120
	2年	154	166	143	135
	3年	128	124	137	112
	4年	141	138	146	136
定員1人当り延べ面積(㎡)	29年	32.7	34.5	31.6	27.6
	30年	33.4	31.8	35.3	30.8
	令和元年	29.6	33.0	28.2	27.5
	2年	36.4	38.5	33.6	36.1
	3年	33.4	33.9	33.6	31.2
	4年	36.8	36.0	39.3	32.3
延床面積当り売上高(千円)	29年	80.5	80.9	70.9	90.0
	30年	70.9	70.8	70.8	90.3
	令和元年	80.4	80.0	90.0	80.5
	2年	44.9	41.9	45.3	62.3
	3年	48.0	39.6	52.5	65.0
	4年	70.5	65.7	71.1	90.5

II.全件調査

以下の項目は、回答された全ての調査票を対象に集計しています。

1.集客方法<図9、表27>

(1)予約方法

お客様が予約される際の方法を旅行会社、OTA（オンライントラベルエージェント）、自社HP、直予約の4つに絞って調査しました。

(2)旅行会社経由率

旅行会社経由率 = 旅行会社経由の宿泊人員 ÷ 年間延べ宿泊人員 × 100

今回の調査において全体平均は26.8%でした。前年度から4.3ポイント増加、令和元年度から14.1ポイント減少しました。コロナが収束し旅行会社が旅行業務を再開したことにより前年度よりは増加したものであると思われま

- ・大規模 33.0%（前年度比 +7.8P +31.0% / 令和元年度比 ▲10.5P ▲24.1%）
- ・中規模 23.1%（前年度比 +1.9P +9.0% / 令和元年度比 ▲16.9P ▲42.3%）
- ・小規模 15.9%（前年度比 ▲1.0P ▲5.9% / 令和元年度比 ▲5.6P ▲26.0%）

黒字・赤字別では、

- ・黒字：22.8% 赤字：36.4%

(3)OTA(オンライントラベルエージェント)経由率

OTA 経由率 = OTA 経由の宿泊人員 ÷ 年間延べ宿泊人員 × 100

全体平均は43.3%でした。前年度から2.0ポイント減少、令和元年度から12.4ポイント増加しました。ほぼ毎年割合が増加してきま

- ・大規模 38.0%（前年度比 ▲5.4P ▲12.4% / 令和元年度比 +7.5P +24.6%）
- ・中規模 48.4%（前年度比 +1.5P +3.2% / 令和元年度比 +18.8P +63.5%）
- ・小規模 46.0%（前年度比 ▲0.4P ▲0.9% / 令和元年度比 ▲0.9P ▲1.9%）

黒字・赤字別では、

- ・黒字：45.4% 赤字：38.3%

(4)自社HP 経由率

自社HP 経由率 = 自社HP 経由の宿泊人員 ÷ 年間延べ宿泊人員 × 100

全体平均は14.4%でした。前年度から0.5ポイント減少、令和元年度比2.8ポイント増加しました。

- ・大規模 14.2%（前年度比 ▲0.5P ▲3.4% / 令和元年度比 +3.5P +32.7%）
- ・中規模 13.0%（前年度比 ▲1.3P ▲9.1% / 令和元年度比 +1.6P +14.0%）
- ・小規模 20.1%（前年度比 +1.8P +9.8% / 令和元年度比 ▲3.0P ▲13.0%）

黒字・赤字別では、

- ・黒字：16.3% 赤字：9.9%

(4)直予約(自社 HP を除く)経由率

直予約(自社 HP を除く)経由率=直予約(自社 HP を除く)の宿泊人員÷年間延べ宿泊人員×100

全体平均は 15.5%と、前年度比 1.7 ポイント減少しました。

- ・大規模 14.8% (前年度比 ▲1.9 P ▲11.4%)
- ・中規模 15.6% (前年度比 ▲1.7P ▲9.8%)
- ・小規模 18.0% (前年度比 ▲0.4P ▲2.2%)

黒字・赤字別では、

- ・黒字：15.5% 赤字：15.4%

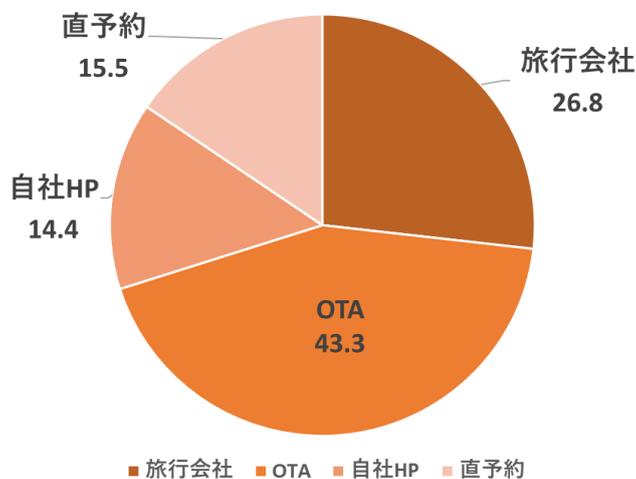
(前々年度より始めた設問であるため、令和元年度比は掲載しておりません。)

表27 集客の方法

(単位:%)

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
旅行会社経由	29年	40.3	42.7	37.8	31.8
	30年	41.6	46.1	38.7	28.3
	令和元年	40.9	43.5	40.0	21.5
	2年	24.1	27.0	23.7	10.6
	3年	22.5	25.2	21.2	16.9
	4年	26.8	33.0	23.1	15.9
OTA経由	29年	25.0	24.3	25.7	27.8
	30年	26.9	25.7	26.9	34.2
	令和元年	30.9	30.5	29.6	46.9
	2年	48.3	47.6	48.2	51.7
	3年	45.3	43.4	46.9	46.4
	4年	43.3	38.0	48.4	46.0
自社HP経由	29年	10.7	10.3	10.5	15.0
	30年	12.3	11.1	12.6	18.5
	令和元年	11.6	10.7	11.4	23.1
	2年	11.1	10.5	10.3	17.3
	3年	14.9	14.7	14.3	18.3
	4年	14.4	14.2	13.0	20.1
直予約	29年	-	-	-	-
	30年	-	-	-	-
	令和元年	-	-	-	-
	2年	16.1	14.3	17.5	19.2
	3年	17.2	16.7	17.3	18.4
	4年	15.5	14.8	15.6	18.0

図9 宿泊人員構成



2.ホームページ<表 28、表 29、表 30>

(1)即時予約可能なホームページがある場合の対応言語

外国語ホームページ対応割合は

- ・日本語 : 95.2 %
- ・英語 : 69.9 %
- ・繁体字 : 40.0 %
- ・簡体字 : 36.8 %
- ・韓国語 : 31.5 %
- ・タイ語 : 5.6%
- ・スペイン語 : 2.8%
- ・ドイツ語 : 2.8%
- ・フランス語 : 3.5%

表28 即時予約可能なHPがある場合の対応言語 (単位:%)

年度	日本語	英語	中国語		韓国語	タイ語	スペイン語	ドイツ語	フランス語
			繁体字	簡体字					
令和4年	95.2	69.9	40.0	36.8	31.5	5.6	2.8	2.8	3.5

(2)即時予約可能なスマートフォンサイトがある場合の対応言語

スマートフォンの外国語ホームページ対応割合は

- ・日本語 : 97.2 %
- ・英語 : 69.1 %
- ・繁体字 : 40.5 %
- ・簡体字 : 35.3 %
- ・韓国語 : 31.4 %
- ・タイ語 : 4.2%
- ・スペイン語 : 2.9%
- ・ドイツ語 : 2.1%
- ・フランス語 : 3.6%

表29 即時予約可能なスマートフォンサイトがある場合の対応言語 (単位:%)

年度	日本語	英語	中国語		韓国語	タイ語	スペイン語	ドイツ語	フランス語
			繁体字	簡体字					
令和4年	97.2	69.1	40.5	35.3	31.4	4.2	2.9	2.1	3.6

(3)インターネットでの予約受付方法

全体の平均は、

- ・自社ホームページだけで販売 0.0%
- ・自社ホームページと OTA で販売 97.9%
- ・自社ホームページはなく OTA だけで販売 1.4%
- ・ネット予約は取り扱っていない 0.7%

インバウンドの増加傾向を受けて、多言語化が進んできています。

英語、ハングル、繁体字、簡体字はマストで、さらに多言語化を進めるべきであると考えます。

表30 インターネット対応の状況について (単位:%)

	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
自社HPだけで販売	0.0	0.0	0.0	0.0
自社HPとOTAで販売	97.9	100.0	98.5	96.4
自社HPはなく、OTAだけで販売	1.4	0.0	1.5	1.8
ネット予約は取り扱っていない	0.7	0.0	0.0	1.8

3.インターネット対応 <表 31>

(1)サイトコントローラーの導入状況

サイトコントローラーを導入している全体の平均は 97.2%でした。

大規模：100.0% 中規模：98.4% 小規模：94.4%

(2)公衆無線LANの設置状況、設置場所

公衆無線 LAN を全館で使えるのは全体で 88.2%です。毎年着実に増加しています。

大規模：84.6% 中規模：90.6% 小規模：87.0%

表31 インターネット対応 (単位:%)

	サイトコントローラーを 導入している	公衆無線LANの設置		
		全館で 使える	一部で 使える	使えない
全体	97.2	88.2	10.4	1.4
大規模	100.0	84.6	15.4	11.5
中規模	98.4	90.6	21.9	12.5
小規模	94.4	87.0	25.9	24.1
北海道	100.0	100.0	0.0	0.0
東北	100.0	85.7	14.3	0.0
関東	95.2	95.2	0.0	4.8
北陸信越	95.0	80.0	20.0	0.0
中部	100.0	81.8	18.2	0.0
関西	100.0	92.9	7.1	0.0
中国	100.0	92.3	7.7	0.0
四国	86.7	60.0	33.3	6.7
九州	100.0	100.0	0.0	0.0
黒字	98.0	91.1	7.9	1.0
赤字	95.3	81.4	16.3	2.3

4.外国人宿泊客 <表 32、表 33、表 34、表 35、表 36>

(1)外国人宿泊人員比率

$$\text{外国人宿泊人員比率} = \text{外国人宿泊人員} \div \text{年間延べ宿泊人員} \times 100$$

全体における外国人宿泊人員比率は7.7%となり、前年度から7.5ポイント増加、令和元年度から2.0ポイント減少。実態的にはほぼゼロです。この解説を記している時点で急激な増加を示しており、令和6年の一層の増加に期待したいと思います。

- ・大規模 9.1%
(前年度比 +9.1P / 令和元年度比 ▲1.6P)
- ・中規模 6.6%
(前年度比 +6.0P / 令和元年度比 ▲1.9P)
- ・小規模 6.3%
(前年度比 +6.2P / 令和元年度比 ▲3.6P)

表32 外国人宿泊人員比率 (単位:%)

年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
29年	10.2	11.2	8.1	14.0
30年	9.9	10.3	9.1	11.9
令和元年	9.7	10.7	8.5	9.9
2年	0.8	1.3	0.7	0.7
3年	0.2	0.0	0.6	0.1
4年	7.7	9.1	6.6	6.3

(2)地域別外国人宿泊人員比率

地域別で数値は関東と関西が多くなっており、東北・中国・四国が少なくなっています。

観光公害が問題になっているなかで、全国への分散化が大きな課題です。

表33 地域別外国人宿泊人員比率 (単位:%)

地域	令和3年	令和4年	増減
北海道	0.0	5.9	+5.9
東北	0.1	1.3	+1.2
関東	0.7	33.0	+32.3
北陸信越	0.0	3.7	+3.7
中部	0.1	2.4	+2.3
関西	0.0	9.0	+9.0
中国	0.0	1.3	+1.3
四国	0.0	1.7	+1.7
九州	0.5	4.0	+3.5

(3)国籍別外国人宿泊人員

$$\text{国籍別外国人} = \text{国別の人員} \div \text{外国人宿泊人員} \times 100$$

全体において国籍別で一番多いのは台湾14.2%、次いで香港の11.8%、韓国の11.5%でした。コロナ前と比べ中国の割合が大きく減少し、アメリカやタイが増加しています。

表34 国籍別外国人宿泊 (単位:%)

年度	中国	韓国	台湾	香港	米国	タイ	豪州	その他
29年	22.0	15.2	25.0	16.6	2.6	3.0	-	14.5
30年	19.3	16.1	23.8	16.1	3.6	2.7	-	17.7
令和元年	26.4	12.9	25.7	12.7	3.4	3.2	-	14.9
2年	35.9	2.6	16.1	10.3	4.2	6.3	1.9	22.6
3年	11.1	5.9	2.3	1.8	6.3	1.6	0.6	70.3
4年	2.5	11.5	14.2	11.8	5.9	7.2	2.6	44.3

(4)外国人客受け入れの意向

- ・積極的に受け入れたい 61.1% (前年度比 +10.1P / 令和元年度比 +9.2P)
- ・高単価の外国人のみ受け入れたい 22.2% (前年度比 ▲0.3P / 令和元年度比 +2.2P)
- ・日本人観光客を優先する 16.7% (前年度比 ▲8.3P / 令和元年度比 ▲9.2P)
- ・外国人客は受け入れたくない 0.0% (前年度比 ±0.0P / 令和元年度比 ▲1.5P)

インバウンド抜きにして経営が成り立たないと考える旅館が年々増加しています。

表35 訪日外国人客の受入れ

(単位:%)

年度	積極的に受け入れたい	高単価の外国人客のみ受け入れたい	日本人客を優先する	外国人客は受け入れたくない
29年	49.4	22.9	22.9	1.7
30年	53.4	23.3	19.6	1.1
令和元年	51.9	20.0	25.9	1.5
2年	55.0	21.7	23.3	0.0
3年	51.0	22.5	25.0	0.0
4年	61.1	22.2	16.7	0.0

表36 規模別外国人の受け入れ意向

(単位:%)

令和4年	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
積極的に受け入れたい	61.1	72.0	66.2	50.0
高単価の外国人客のみ受け入れたい	22.2	16.0	21.5	25.9
日本人客を優先する	16.7	12.0	12.3	24.1
外国人客は受け入れたくない	0.0	0.0	0.0	0.0

5.クレジットカード&電子決済<表 37>

(1)クレジットカード決済

クレジットカード決済が可能なのは

大規模：100.0% 中規模：100.0% 小規模：100.0%

(2)ネット予約時の事前決済

ネット予約時の事前決済が可能なのは全体で91.8%となりました。地域別では中国と四国が100%でした。

大規模：96.2% 中規模：93.9% 小規模：87.3%

(3)クレジットカード以外の電子決済

クレジットカード以外の電子決済が可能なのは全体で82.9%となりました。規模が小さくなるほど低くなるのが課題です。

大規模：96.2% 中規模：80.3% 小規模：79.6%

(4)自社HPからの予約に占める事前決済の割合

自社HPからの予約に占める事前決済の割合は全体で23.9%となりました。

大規模：19.5% 中規模：23.6% 小規模：26.5%

表37 決済方法

(単位：%)

	クレジットカードによる決済が可能	ネット予約時の事前決済が可能	クレジットカード以外の事前決済が可能	自社HPからの予約に占める事前決済の割合
全体	100.0	91.8	82.9	23.9
大規模	100.0	96.2	96.2	19.5
中規模	100.0	93.9	80.3	23.6
小規模	100.0	87.3	79.6	26.5
北海道	100.0	90.0	85.0	21.5
東北	100.0	71.4	71.4	10.0
関東	100.0	85.7	76.2	26.9
北陸信越	100.0	95.0	80.0	14.8
中部	100.0	91.7	100.0	21.7
関西	100.0	92.9	81.5	36.7
中国	100.0	100.0	84.6	22.2
四国	100.0	100.0	93.3	19.5
九州	100.0	90.9	72.7	26.0
黒字	100.0	93.1	80.0	23.5
赤字	100.0	89.1	89.1	24.8

むすび

今回の調査でコロナ禍の影響期間は決算期からして約半分です。しかし 2022 年 10 月から断続的に政府の観光刺激策である全国旅行支援がありましたので、個人のお客様の多い旅館においてはコロナ前の水準かそれ以上の決算になったように感じました。

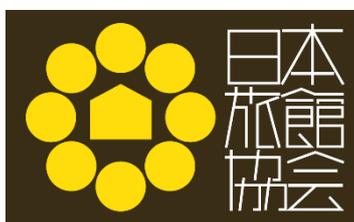
この報告書にはありませんが、調査票に決算書の数値を入力して頂くと前年度の平均やあるべき指標が表示され、自社の立ち位置が分かります。

調査にご協力頂きました会員の皆さまに感謝申し上げます。

令和 6 年度調査（令和 6 年 8 月から調査実施予定）も今回同様インターネットによる調査に致します。

今後とも経営に役立つ指標も掲載しますのでご協力宜しくお願い申し上げます。

本資料を引用される際は、出典名を「(一社)日本旅館協会 営業状況等統計調査」と明記してください。



一般社団法人日本旅館協会
JAPAN RYOKAN & HOTEL ASSOCIATION

令和6年1月
営業状況等統計調査（解説編）

発行 一般社団法人 日本旅館協会
〒102-0093
東京都千代田区平河町 2-5-5
全国旅館会館 2階
TEL : 03-5215-7337 FAX : 03-5215-7338

本書を許可無く複製する事は固く禁じます。許諾については当協会までご照会下さい。